【第3種郵便物認可】 2021年（令和3年）5月18日（火曜日）

物流ニッポン LOGISTICS NIPPON

国際物流事業を強化

富士倉庫

倉庫新設も視野

フォワーダー業務 3年後メド 売上高比率10%に上げ

輸入ナッツ コーヒー豆

富士倉庫（坂口雅彦社長、横浜市中区）は、国際物流事業を強化する。3年後をメドに、フォワーダー業務の売上高比率を現在の5%から10%まで引き上げる。国際物流を担う東京支店（東京都港区）の機能も強化。業容拡大に伴い、臨海部での新倉庫建設も視野に入れる。

（吉田英行）

2022年度を初年度とする10カ年の長期計画を策定し、重点施策として国際物流事業の強化を盛り込む。

国際物流事業では主に、東南アジア、欧州、米国、南米からの複合一貫輸送の受注に注力。外国語が堪能な社員を活用し、新規業務拡大を図る。

また、新型コロナウイルス禍の収束を待って、現在港区汐留にある東京支店を移転・拡張。人員も現在の1・5倍に増やし、機能を強化する。移転先は、同区高輪ゲートウェイ駅周辺などを候補としている。

坂口社長

新倉庫は、好調な輸入ナッツ、コーヒー豆の保管・選別業務を拡大するために検討しており、東京湾臨海部で延べ床面積1万平方㍍以上の規模を見込む。同社は19年、横浜港本牧ふ頭D突堤（横浜市中区）の倉庫内に、落花生の選別工場を設置した。1階部分850平方㍍をクリーンルーム化し、選別ライン2本を装備。最新鋭設備を導入して色や比重、サイズの選別を実施しているほか、近赤外線及びエックス線、金属検知機による異物検査、割れやカビの有無のチェックなども手掛けている。

20年1月には、同倉庫の5階にもクリーンルームを設け、輸入アーモンドの選別業務を開始した。工場内は空調完備で、壁・床面は防塵（ぼうじん）加工が施され、エアシャワーを設置。食品工場並みの衛生環境を整え、大手菓子メーカーが求める高い衛生・品質基準に対応している。

これらの業務が好調に推移し、倉庫の保管スペースが少なくなっていることから、臨海部に新たな倉庫を設け、ナッツ関係の業務拡大につなげる。

同社は20年1月にAEO（認定事業者）制度の「認定通関業者」を取得。働き方改革や品質アップの取り組みも進めており、20年度は19年度に比べて時間外労働を3分の1まで削減したほか、破損事故9割削減、経費半減も達成するなど成果を上げている。

坂口社長は「今年度はスローガンに『社員に優しい環境づくり』を掲げ、社員から様々な改善提案や要望を募り、改善につなげていく。新型コロナウイルス禍が長引いているが、業務の縮小などは一切考えていない。成長戦略をいかに継続するかが重要」と話している。